

本年度は稻城市が会長市となり、事務局を稻城市立平尾小学校に置き、福田章人校長が副会長及び事務局長を務めます。さらに次年度の会長市の東久留米市から東久留米市立

日頃より本会の活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り、感謝申上げます。前会長西東京市立保谷中学校校長三沢英俊先生の後を引き継ぎ、その重責に身の引き締まる思いでございます。本年度の役員で力を合わせ、本研究会の発展充実に努めてまいりたいと存じます。

さて、新型コロナウイルス感染症拡大に係る様々な困難を乗り越え、社会全體が収束への動きを見据える中、五月十八日に、令和五年度の定期総会を稻城市立稻城第五中学校にて開催いたしました。その際、併せて実施いたしました研究部による第

令和五年度多摩地区特別支援教育研究会会長  
稲城市立稻城第五中学校校長

小林淳一

## 児童・生徒の健やかな成長のために —たゆまぬ研究の推進と行事の充実—

多摩特研

多摩地区  
特別支援教育研究会会報  
令和5年度 第1号  
編集：広報部

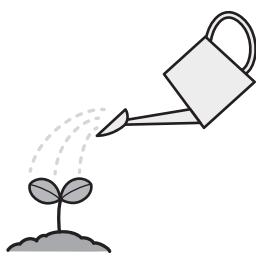
一回講演会では、稻城市教育委員会指導課指導主事佐藤孝様を講師として招聘し、「稻城市における特別支援教育の推進について」というテーマで講演をしていただきました。特別支援教育の現状と最新情報、新たな視点を踏まえた実践とその意義について、貴重かつ有益な内容の講演をしていただきました。今後も研究部により様々な研修会を企画しておられますので、会員の皆様の積極的な参加をお願いいたします。

本研究会の活動のもう一つの大きな柱は、活発な行事の数々です。小学校における連合運動会・交流会、中学校における球技大会、マラソン大会、劇と音楽の会を実施しております。今年度も全ての行事の実施に向けて準備を進めています。これら行事部の活動はまさに会員の皆様の情熱のたまものであり、児童・生徒の可能性を最大限に引き出しながら、他校との交流を通して豊かな経験を積ませる貴重な機会となつております。

各行事におきましては、実行委員長を各ブロックの皆様にお願いするとともに、実行委員長校の校長先生には大会委員長としてご協力をいただいております。行事の成功はひとえに会員の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

六月十九日には第一回地区委員会議会を開き、様々な課題について情報交換や意見交換を行い、各地区的動向や共通理解を図ったところでございます。

本研究会は、正に今、現場に何が必要とされているかを正面から受け止め、課題の解決に向けて取り組んでいるところです。これからも研究の推進と行事の充実を通して、児童・生徒の健やかな成長のために邁進してまいります。引き続きご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



さらに、広報部が発行する会報は、研究や行事などの本会の活動を会員の皆様へお伝えする大切な媒体であるとともに、ご支援いただいている教育委員会への大切な活動報告にもなっております。地区委員の皆様には、定期総会の案内をはじめ各地区への連絡や情報提供、あるいは事務局（調査部）による様々な調査活動にご協力をいただいているところであります。

退任あいさつ

令和四年度多摩地区特別支援教育研究会会長

西東京市立保谷中学校校長

三沢  
英俊

この数年、コロナ禍で休止していた諸活動も会員の皆様のご尽力のおかげで、昨年度は多くの取り組みを実施することができました。中には、

無事に全ての審議事項が可決となり  
今年度のあらたな活動が開始し、感  
無量の思いです。この場をお借りし  
ましてお礼申し上げます。本当にあ  
りがとうございました。

援学級設置校長会には、格別なるご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。また、本研究会の役員並びに地区委員の先生方には、極めてご多用の中、会の運営と事業活動に積極的なご支援をいただきました。皆さまのご協力・ご支援に心より感謝申し上げます。

生徒が著しく成長する姿が見られあ  
らためて本会の意義や価値の大きさ  
を感じた次第です。

そして今年度は、新型コロナが5類となり、また新たなステージにおいて今後の活動がよりいつそう充実することを願っています。また立場は変わりましても特別支援学級の二校長として微力ながら何かしら支えになれば幸いと存じます。

令和五年五月十八日に行われた総会では、会員の皆様のご協力のもと

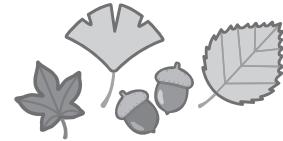
なること、またそのような機会や環境を整え働きかけることができる研究会であることです。子どもたちの生活環境や教育環境も様々な中で「仲間がいるからがんばれる！」そう思える繋がりや自己の成長や充実感を味わえる教育活動の場や機会をぜひとも保障し継続していくってほしいと思います。

これからも、多摩地区特別支援教育研究会は、いつそう充実した教育活動を実施し、そのため最大限の努力を惜しまず子どもたちのよりいつそうの成長を図られていくものと存じます。そして子どもたちのために、先生方が力を合わせて特別支援教育がますます成長・発展していくことを祈念しまして、退任のあい

最後になりますか 一年間 本研究会の活動を支えていただきました  
各市町村教育委員会ならびに特別支

## 令和5年度 役員名簿

役職名	氏名	勤務校	職名	役職名	氏名	勤務校	職名
会長	小林 淳一	稻城市立稻城第五中学校	校長	研究部 部長	金田 有希	日野市立大坂上中学校	主任教諭
副会長	福田 章人	稻城市立平尾小学校	校長	行事部 中学校部長	松村 寿春	八王子市立七国中学校	主任教諭
	中川 義弘	東久留米市立東中学校	校長	広報部 部長	金坂 美穂	国立市立国立第三中学校	主任教諭
相談役	小林 徹	郡山女子大学	教授	調査部部長		事務局が兼任	
	石坂 光敏	東京女子体育大学 他	非常勤講師	会計監査	三沢 英俊	西東京市立保谷中学校	校長
	岩瀬 敏郎	狛江市立狛江第二中学校	副校長		井上 淳	東久留米市立第二小学校	校長
	鈴木智代子	日野市立大坂上中学校	介助員				
事務局	福田 章人	稻城市立平尾小学校	校長				
会計	小林 孝夫	稻城市立稻城第五中学校	副校長				



第1回  
講演会  
報告

佐藤指導主事は現在稲城市教育委員会で着任3年目。特別支援教育をご担当されて2年目を迎えいらっしゃいます。講演では、稲城市的現状と課題についてお話をいたきました。

支援の必要な生徒の増加に伴い、稲城市では個に応じた教育、ニーズに応じた教育環境の整備、支援の充実を目指している。その具体例として、特別支援学級保護者会を実施し保護者との意見交換を行っていることや、発達支援センターでは就学前から成人まで相談できる窓口を確保していること。そして様々な研修会を通して特別支援教育の専門性の向上を図ること等を通じて、重層的に発達段階に応じた取り組みを行つているとのことでした。

**「稲城市的今後の課題」**

充実した支援体制が伺える一方で、稲城市における特別支援教育の課題を3つ提示していただきました。(1)教員一人一人の専門性の向上。(2)固定学級設置校や拠点校以外の先生方に対する支援教育の理解。(3)セ

日時…令和五年五月十八日（木）  
場所…稲城市立 稲城第五中学校  
講師…稲城市教育委員会指導主事 佐藤 孝氏

ンター的機能のさらなる活用。それらの課題解決に向け、日々努力を続けられています。課題解決に向けた取り組みが市によつて異なることを考えると、他地域の取り組みを知ることが自分達の抱える課題解決に向けたきっかけになることを再認識させられました。

**「稲城市の現状」「交流・共同学習について」**

最後に、交流・共同学習についての重要性をお話いただき、他地域の先生と情報交換する時間をもちました。将来の社会参画にむけ、その場その場だけの交流ではなく、より良い経験を通常級の先生方とともに生み出すことが必要である。ではどのような取り組みが考えられるのか。意見交換をしてみると学校ごとに様々な取り組みがあり、新しい視点を得ることができた貴重な時間となりました。

自分達の地域との取り組みの違い等を知り、そこから新たな見方や考え方を得ることができた研修会となりました。

## 稲城市における特別支援教育の推進について

## 小学校

### 七生・八王子 ブロック交流会

日野市では、6月2日（金）に「第58回多摩特研交流会」が行われました。市内小学校特別支援学級（知的・固定学級）全6校が一同に集まり、計140名の児童が日野市ふれあいホールで活動しました。（例年は、都立七生特別支援学校も参加。）コロナ禍では、昨年度に続いての開催です。

昨年度は、感染症対策の観点から保護者の参観を見合わせていましたが、今年度より保護者の参観を再開し、以前のような活気が少しずつ会場に戻っていました。

多摩特研交流会は、「ともだちのわをひろげよう」を合言葉に、他校の友達と仲よく関わり合い、親交を深めることを目的とした活動をしていました。歌や体操、ゲーム、ダンスなど様々な活動を通して、他校の児童と楽しく活動して交流しました。

各校の学級紹介では、担当学級の代表児童が一校一校を元気に紹介してくれました。それぞれの学級もそれへ応えてより一層大きな声で返事を返す姿に、それぞれの学級の良さが感じられました。

それぞれの学級の名前を呼び合いながらみんなで一つになつて歌う姿は、仲間としての力をとても感じる時間でした。

たまご「ラーメン体操」は、と

てもコミカルな体操で、多くの児童が大好きな活動の一つです。一年生から六年生までみんなが動きを揃えて体操に励む様子は見ていてとても微笑ましい様子でした。体操が終わっても「もう一回やりたい」と話す児童もいるなど、とても大盛り上がりでした。

ゲーム「猛獣狩りに行こうよ」では、140名の児童が仲良く入り混じって交流しました。初めて会う友達とも上手に自己紹介をしたり、好きなものを伝え合つて共感し合つたりするなど、楽しい雰囲気で活動していました。大集団での活動が苦手な児童も、教員が様々な支援を行うことで参加できることもありました。

ダンス「タタロチカ」は、ロシアなどで踊られる伝統的な踊りです。みんなで大きな円になり、リズムに合わせて踊つたり、大きな声で掛け声をしたりするなど、この頃には会場全体に大きな一体感が生まれていきました。

れ、多摩特研交流会でも時間短縮や活動内容の検討を行い実施してきました。それでも児童一人一人の笑顔や楽しく活動する様子はとても交流会の意義を感じました。

次年度以降も交流会の活動を継続させ、児童同士の関わりを大切にした活動を目指していきます。

（日野市立日野第八小学校  
齋藤健介）

## 行事部報告

### 中学校

#### 球技大会

#### 立川会場

六月二十三日（金）に第五十一回多摩特研球技大会が開催されました。今年度は、様々な制約が解除され、コロナ禍の前に戻つてきました大会になりました。立川会場では、泉体育館に二十一校が集まり、バスケットボールとディスクサッカーの競技が行われました。

本会場は、収容人数に対して二倍以上の生徒が参加するため、午前・午後の二部制の大会になりました。限られた時間の中で試合を行つたために、四分の試合に入れ替えを一分で行うタイトなスケジュールになりました。

最後にはなりましたが、大会委員長の山口聰校長先生をはじめ、二十校の実行委員の先生方、看護師の矢野さん、泉体育館の皆様、立川市教育委員会の皆様、本大会に関わつてくださいましたすべての方に感謝を申し上げます。来年度はさらに生徒の活躍の場を増やし、成長や努力の証を感じられる大会になることを願つています。

（立川市立立川第二中学校  
高橋 健太郎）

前・午後の二部制の大会になりました。限られた時間の中で試合を行つたために、四分の試合に入れ替えを一分で行うタイトなスケジュールになりました。

それでも、参加したすべての生徒たちは素晴らしい活躍と頑張りを見せてくれました。ゴールを目指してチーム一丸となつてボールを追いかける姿、何度もシュートを打ちチャレンジする姿、相手に負けないと奮起する姿、時間を意識して素早く動く姿など多くの活躍が見られました。一人一人や各校でのこの大会にかける思いが伝わってきました。また、随所でレベルの高いプレーや相手をリスクペクトする姿も見られ、体育祭や修学旅行などで忙しい中でも各校で鍛えあげられているなど感じました。

コロナ禍を経て、二年連続の開催になりましたが、タイムテーブル通りに運営できたのは皆さん協力のおかげです。

最後にはなりましたが、大会委員長の山口聰校長先生をはじめ、二十校の実行委員の先生方、看護師の矢野さん、泉体育館の皆様、立川市教育委員会の皆様、本大会に関わつてくださいましたすべての方に感謝を申し上げます。来年度はさらに生徒の活躍の場を増やし、成長や努力の証を感じられる大会になることを願つています。

【多摩特研】会報  
発行 稲城市立稲城第五中学校  
会長 小林 淳一  
編集印刷 コロニー印刷  
令和五年十月発行